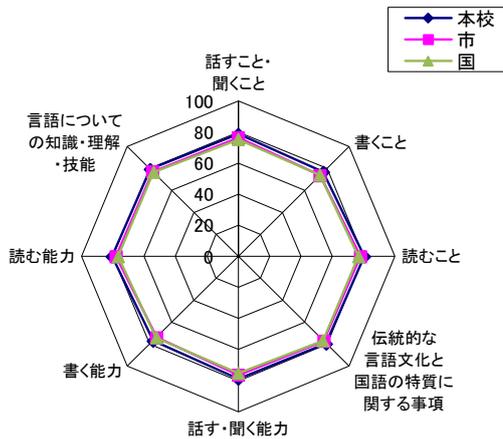


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

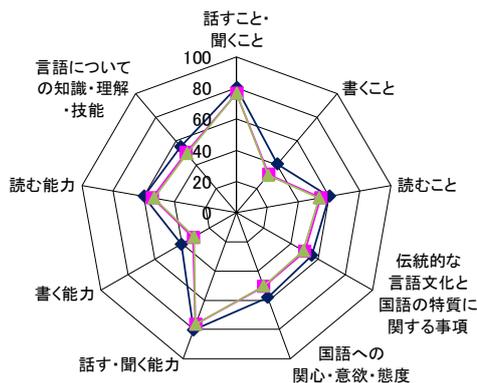
【国語A】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 78.8 | 76.4 | 75.2 |
| | 書くこと | 76.8 | 73.7 | 73.9 |
| | 読むこと | 80.5 | 78.0 | 76.7 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 79.4 | 77.2 | 76.5 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | | | |
| | 話す・聞く能力 | 78.8 | 76.4 | 75.2 |
| | 書く能力 | 76.8 | 73.7 | 73.9 |
| | 読む能力 | 80.5 | 78.0 | 76.7 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 79.4 | 77.2 | 76.5 |



【国語B】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 80.3 | 76.5 | 76.6 |
| | 書くこと | 40.7 | 31.9 | 31.3 |
| | 読むこと | 60.0 | 54.5 | 53.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 55.4 | 50.2 | 49.2 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 58.2 | 50.6 | 50.3 |
| | 話す・聞く能力 | 80.3 | 76.5 | 76.6 |
| | 書く能力 | 40.7 | 31.9 | 31.3 |
| | 読む能力 | 60.0 | 54.5 | 53.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 55.4 | 50.2 | 49.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|---|--|
| 話すこと・聞くこと | ○国や市と比較すると本校の正答率は全ての問いで上回っている。特に話の論理的な構成や展開に注意し、必要に応じて適切な質問するなどの話し合い活動に関わる力が高いことが分かる。これは、臨機応変に対応できる力を伸ばすための学級や委員会活動などが活発に行われている成果と考える。 | ●話し合い活動における話題の方向性の決め方や質疑内容の取捨選択の力は今後も伸ばしていく必要がある。 ●話し合い活動の中で、司会者としての役割を身に付ける必要がある。そのため、確認しなければならないことと決定すべきことなどを瞬時に判断できるよう学級活動やグループ活動を取り入れていきたい。 |
| 書くこと | ○国や市と比べると本校の正答率は若干上回っている。中でも、選択形式の問題であれば、適切な解答を選ぶことができる。 ●しかし、他の領域と比較するとかなり低いことがうかがえる。更に、たとえ短文の形であっても記述することに対するの苦手意識が強く、特に、根拠をもとに自分の意見を展開していく力が弱い。 | ●普段から書く作業を取り入れた授業を行うことで、書くことに対する抵抗を少なくする。 ●読解の授業でも、一語で答えるのではなく、根拠をあげながら、わかりやすく、主語・述語、正しい言葉遣いを意識させながら取り組ませる。 |
| 読むこと | ○この領域に関しては、国や市をわずかに上回っているのみで、ほぼ平均値といえる。しかし、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題は比較的高かった。 ●文章の読み取りに比べて、資料やグラフの読み取りに関しては、平均をかううじて上回る程度で、他と比べて低い。 | ●説明的文章では、キーワードやキーセンテンスを見つけ出し、要旨をまとめさせる。また、接続詞にも注目し段落相互の関係について理解させる。 ●小説などでは、登場人物の行動や情景描写などに注意し、行間に込められた心情を読み取る課題を多く取り入れる。 ●書くこととも関連させ、資料やグラフから読みとる力を身に付けさせる。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○古典における歴史的仮名遣いなどに関する問題は、非常に高い正答率で、国を23ポイント近く上回っている。 ●漢字の読み書きの問題は、国と市の平均と同程度の正答率で、中には、下回るものもあった。 ●語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力が弱い。 | ●生徒個人の興味関心によって、語彙力の差が大きい。読書量にも関係する部分もあるが、読んでいる本のジャンルも大きい。 ●分からない言葉や漢字があっても調べようとせず、すぐに人に聞いてしまったり、そのままにしてしまう傾向によるものが大きいと思われる。そこで、同音異義語や同訓異字などを中心に語彙を広げる授業や調べ学習などを取り入れた授業を構築したい。 |